

真言宗智山派 地蔵寺



所在地：北海道札幌市中央区双子山1丁目10-12
 建築面積：392.18㎡
 延床面積：707.75㎡
 構造・規模：RC造2階建、耐火構造
 建築設計：(株) 司設計事務所
 照明設計：(有) イリス
 施工：建築/阿部建設(株)
 電気/ (株) でんこう
 完成：平成21年7月

札幌開拓草創期に安全を祈願して建立された開拓地蔵尊が祀られている地蔵寺。
 照明は人感センサを導入して無駄な明かりをカットしたり、LED照明を採用して省エネ、省メンテが図られています。

札幌開拓の安全と健康を祈願して建立された地蔵尊が祀られている「地蔵寺」を整備

札幌開拓草創期(明治4年)に開拓の安全と健康を祈願して建立した開拓地蔵尊。その後、札幌の市街地の拡大とともに開拓地蔵は西へ西へと移動していき、昭和3年に一般有志の浄財基金を求めて大通り西19丁目に「開拓地蔵堂」が建立されました。昭和31年には、現在の双子町へ当時の寺院を解体移築。平成21年7月に寺院の老朽化に伴い、新たな寺院として鉄筋コンクリート造、2階建、耐火構造に整備されました。

共用部は人感センサ連動による省エネ。本堂はLED照明で省エネ・省メンテを実現

誰もがいつでも参詣できる寺院であることから、照明は共用部である玄関ホールや廊下などには蛍光灯ダウンライトと人感センサを組み合せ、人の在・不在を検知してON・OFF制御し、省エネ・消し忘れ防止を図っています。

48畳の広い外陣は格天井で、天井高さ3.45mとなっており、照明はFHP32W3灯用浅枠和風スクエア器具を均等配置。檀家の使用以外にも貸葬儀などに活用されるため、壁スイッチにて段調光を可能にし、どの宗派でも対応できるフレキシブルな明るさが得られるように配慮されています。本尊が安置されている本堂は、天井高さが5mと高いため、省エネはもちろん、ランプメンテナンスの手間も考慮して小電力で40000時間の長寿命のLEDダウンライト[イー・コア]2000シリーズ電球色相当(枠は目立たないよう天井と同色の木製シール加工)を採用し、本尊の顔が十分見える明るさを確保。さらに天板間接光を施し、柔らかな光で親しみ感のある本尊を演出しています。

2階に上がる階段の踊り場には、オブジェを照らすLEDライン照明による間接光が施されており、同時に2階の納骨室に導く優しい光環境を創出。納骨室の照明は、中央通路の折上げ天井と壁面両側に電球色のFHP32W1灯用笠なし器具による間接照明を中心に採用し、随所にコンパクト形蛍光灯(電球色)ダウンライトを設置。明るく、温かみのある照明環境とし、家族で参詣の子供にも和みのもてる雰囲気がつくり出されています。



格天井の外陣照明 FHP32W3灯用和風スクエア器具を採用。段調光でフレキシブルな明るさを確保



本堂の照明 長寿命のLED照明により省エネ・省ランプメンテを実現



▲階段踊り場の照明 LEDライン照明による間接照明
 ▲脇間に祀られた開拓地蔵尊の照明



間接照明を主体としたロビーの照明



納骨室の照明 間接照明を中心に随所に蛍光灯ダウンライトを配置

主な照明器具一覧				
設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
室内	笠なし器具	FHT-41007N-PM9	46	32WHf蛍光灯ランプ
	LEDダウンライト	LEDD-20001L-LD9	5	LED 消費電力：26W
	和風埋込スクエア器具	FHR-33340NK-PR9	16	32Wコンパクト形蛍光灯ランプ×3
	断熱施工用ダウンライト	BFD20819SEL	27	25W形電球形蛍光灯ランプ
	ダウンライト	BFD-10101N	21	15W形電球形蛍光灯ランプ